

農業の新しい技術

No.556 (平成17年8月)
分類コード 01-09
熊本県農政部

カンキツ新品種「肥のさやか」の特性

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹研究室
担当者：坂西 英

研究のねらい

「豊福早生」は10月上旬から出荷されるが、減酸の遅い内陸部や標高の高い地域では収穫・出荷が遅れる傾向がみられる。

そこで、このような地域においても10月上旬から出荷でき、産地全体の均質化が図れる栽培しやすい極早生温州を育成する。

研究の成果

< 来歴 >

「肥のさやか」は、1986年「上野早生」を種子親に「福原オレンジ」を交配し、胚分離・培養を行って育成した珠心胚実生変異である。本系統の特徴は以下のとおりである。

< 特性 >

1. 内陸部や標高の高い地域において、着色は9月上旬より始まり「豊福早生」より5日程度早い(図1)。
2. 果実の大きさは「豊福早生」と同程度である。果汁成分は「豊福早生」と比較して糖度は同程度であり、クエン酸は低い傾向にある(表1)。
3. 樹姿、樹勢ともに「豊福早生」と同様である(表2)。
4. 葉は「豊福早生」に比べやや小さく、形は同様である。また、春梢の長さは「豊福早生」よりやや長く、トゲの発生は見られない(表2)。

以上のことから、「肥のさやか」は内陸部や標高の高い地域において、10月上旬から出荷可能であり、「豊福早生」と同程度に樹勢が強いため、栽培しやすい極早生温州として期待できる。

普及上の留意点

1. 「肥のさやか」は、「豊福早生」の補完品種として位置づけ、「豊福早生」の特性がでにくい内陸部や標高の高い地域に適應する。
2. 結果期に至るまで、葉数を確保し、適正な樹勢をとることが必要である。
3. ウイルス・ウイロイド対策として、高接ぎ樹からの穂木採取は行わない。

[具体的データ]

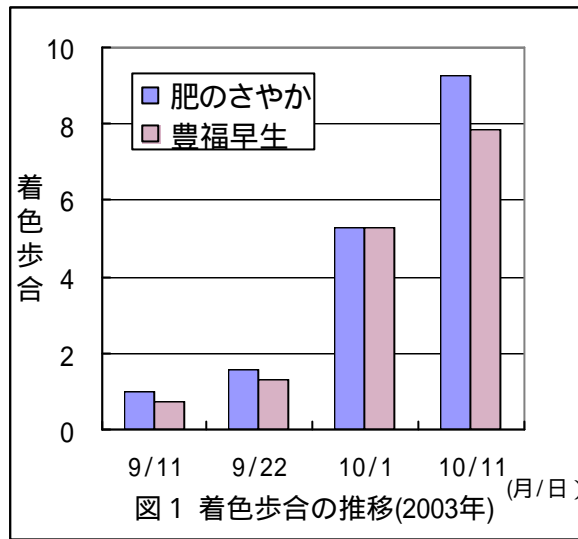


表1 「肥のさやか」の果実形態及び果汁成分(2001~2003年)

品種名	平均果重 g	果実横径 cm	果形指数	果肉歩合 %	着色歩合 分	果汁成分	
						糖度(Brix)	クエン酸含量 g/100ml
肥のさやか	104.7	6.3	130	81.1	5.2	11.2	0.93
豊福早生	99.0	6.4	132	79.8	4.8	11.0	1.09

注) 調査日は10.1時点。シートマルチを7月中旬に実施。

表2 「肥のさやか」の樹体、葉、枝梢の形態(2001年)

品種名	樹姿	樹勢	春葉				春梢			
			葉身長 cm	葉幅 cm	葉柄長 cm	葉面積 cm ²	基部径 mm	長さ cm	節間長 cm	トゲ数 ^{a)} 本
肥のさやか	中間	強	12.2	5.05	1.73	40.4	4.0	18.2	2.2	0.00
豊福早生	中間	強	12.0	5.75	1.94	45.5	4.2	16.1	2.0	0.47

注) a)トゲ数は春梢1本あたりのトゲの本数。



写真1 . 「肥のさやか」の着果状況



写真2 . 「肥のさやか」の果実(5方向)